

令和7年(2025年)1月27日 公表  
 令和6年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ウマヅラハギ (日本海・東シナ海系群)

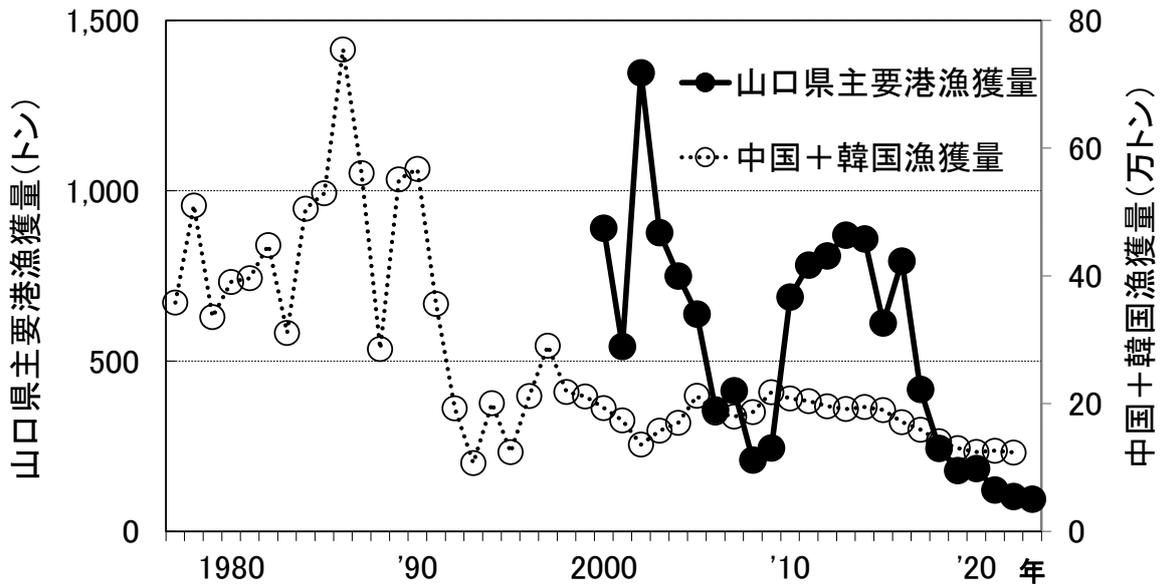


図 山口県主要港及び中国+韓国のかわはぎ類 (主体はウマヅラハギ) 漁獲量 ((国研) 水産研究・教育機構資源評価報告書) の推移

【漁業】ウマヅラハギは山口県では主に沖合底びき網で春及び秋を主漁期として漁獲される。沿岸域では定置網、すくい網、小型底びき網などで主に冬～春に漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海沿岸の主要港の漁獲量は、2000年以降では2002年の1,346トン を最高として、その後激しく減少し、2008年及び2009年には200トン台となった。2010年～2016年には600～800トン台に増加したものの、2017年以降減少傾向が続き、2023年の漁獲量は95トンであった。

【資源状態】本系群は主に中国及び韓国により漁獲されているので、両国の合計漁獲量から資源水準を評価した。両国の合計漁獲量は1992年以降11万～29万トンと低水準で推移していることから、資源水準は低位と判断された。また、石川県定置、日本海南西部、東シナ海のCPUEをもとに算出した資源量指標値の直近5年間(2019～2023年)の資源量指標値の変動から、資源動向は横ばいと判断された。

資源の水準・動向		2023年漁獲量 (トン)	2025年ABCtarget (トン)	2025年ABClimit (トン)
水準	動向			
低位	横ばい	1,300	900	1,100